

令和7年度 シラバス

教科	理科	科目		学年・類型	1 年	必修・選択	単位数(週時数)	3
教科書	新しい科学 1 年 (東京書籍)							
副教材等	毎日の復習 (正進社)、理科便覧 (浜島書店)							

学習の目標	1 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるよう。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養おう。 3 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養おう。	
学習の方法	1 身の回りの自然や現象を不思議だなという目で見て、疑問や問題をも持つようにしよう。 2 身の回りの自然や現象を学習したことで説明できないか考えてみよう。 3 「何」を「どのように」調べたいか、確かめたいかをしっかりと持って、観察や実験を行うようにしよう。 4 実験結果など、集めたデータは、わかりやすく整理することを心がけよう。 5 ノートには、自分の言葉で丁寧記入してください。また、気づいたことは何でも記入していこう。 6 観察や実験の結果からわかったことを、自分の言葉でまとめてみる習慣を身に付けよう。 7 その日のうちに、復習するようにしよう。疑問点はどんどん先生に質問して分からないまま放っておかないようにしよう。	
評価の規準	科学的な知識・技能	科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な知識や技能を身に付けるようにする。
	科学的な思考・判断・表現	観察、実験の結果を考察し、その結果から、調べた現象・現象に関する規則性を見出すことができる。また、それをもとに自らの考えを導き出し表現することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようにすることができるようにする。
評価の方法	○各学期の評価は、定期考査及び小テストの成績、実験報告書、その他主体的な授業への取組等を、上記の観点から踏まえた上で総合的に判断して行います。 ○年間の評価は、各学期の評価を総合的に判断して行います。	

	単元	主な学習内容
1 学期	1 いろいろな生物とその共通点 1 章 生物の観察と分類のしかた 2 章 植物の分類 3 章 動物の分類 2 身のまわりの物質 1 章 身のまわりの物質とその性質	身近な植物の観察、実験を通して、生物の共通点や相違点から分類方法を身に付けます。 植物や動物のからだのつくりとはたらきを、観察・実験の結果をもとに理解し、分類をします。 身のまわりの物質について進んで関わり、目的意識を持って観察・実験を行うことで、技能を習得し、観察・実験の結果を分析して解釈し表現する方法を身に付けます。
2 学期	2 章 気体の性質 3 章 水溶液の性質 4 章 物質の姿と状態変化 3 身のまわりの現象 1 章 光の世界 2 章 音の世界 3 章 力の世界	固体や液体・気体の性質、物質の状態変化について日常生活と関連づけて理解し、物質に対する見方や考え方を養います。 光や音、力などの日常生活と関連した身近な事物・現象に関わる観察・実験を通して、光や音の規則性や力の性質について理解するとともに、これらの事物・現象を日常生活や社会と関連づけて科学的に見る見方や考え方を養います。
3 学期	4 大地の変化 1 章 火をふく大地 2 章 動き続ける大地 3 章 地層から読みとる大地の変化	大地で起こる様々な事物・現象を、身近な地形、地層、岩石などの観察、地震の観測記録などの分析を通し、それらのしくみと大地の変化とを関連づけて考える科学的な見方や考え方を養います。 自然に対する興味・関心を高めるとともに、探求意欲と自然の調べ方の基礎を身に付けます。 様々な大地の変化が実社会・実生活と関連していることや、理科を学ぶことの意義と有効性を理解します。

令和7年度 シラバス

教科	理 科	科目	学年・類型	3 年	必修・選択	単位数(週時数)	4
教科書	新編 新しい科学 3 (東京書籍)、化学基礎 (啓林館)						
副教材等	毎日の復習 (正進社)、理科の自習教室 (正進社)、理科便覧 (浜島書店) フォローアップドリル化学基礎－物質の構成と化学結合－ (数研出版編集部)						

学習の目標	1 身近な自然の事物や身の回りの現象に興味や関心を高めていこう。 2 目的を持って観察や実験などを行い、科学的に調べる能力や態度を身に付けよう。 3 身近な自然の事物や身の回りの現象について理解を深めていこう。 4 事物や現象について科学的に見て考える力を身に付けよう。	
学習の方法	1 身の回りの自然や現象を不思議だという目で見て、疑問や問題を持つようにしよう。 2 身の回りの自然や現象を学習したことで説明できないか考えてみよう。 3 「何」を「どのように」調べたいか、確かめたいかをしっかりと持って、観察や実験を行うようにしよう。 4 実験結果など、集めたデータは、わかりやすく整理することを心がけよう。 5 ノートには、自分の言葉で丁寧に記入しよう。また、気づいたことは何でも記入していこう。 6 観察や実験の結果からわかったことを、自分の言葉でまとめてみる習慣を身に付けよう。 7 その日のうちに、復習するようにしよう。疑問点はどんどん先生に質問してわからないまま放っておかないようにしよう。	
評価の規準	科学的な知識・技能	科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な知識や技能を身に付けるようにする。
	科学的な思考・判断・表現	観察、実験の結果を考察し、その結果から、調べた現象・現象に関する規則性を見出すことができる。また、それをもとに自らの考えを導き出し表現することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようにすることができるようにする。
評価の方法	・ 各学期の評価は、定期考査及び小テストの成績、実験報告書、その他主体的な授業への取組等を、上記の観点を踏まえた上で総合的に判断して行います。 ・ 年間の評価は、各学期の評価を総合的に判断して行います。	

	単元	主な学習内容
1 学期	1 化学変化とイオン 1章 水溶液とイオン 2章 化学変化と電池 3章 酸、アルカリとイオン 2 生命の連続性 1章 生物の成長と生殖 2章 遺伝の規則性と遺伝子 3 運動とエネルギー 1章 物体のいろいろな運動 2章 力の規則性 3章 エネルギーと仕事	水溶液の電気伝導性や中和反応について理解し、現象をイオンのモデルと関連づける見方や考え方を養います。物質や化学変化に対する興味・関心を高め、身のまわりの物質や事象を新たな見方で考えます。 生物の成長や生殖を細胞レベルでとらえるとともに、細胞分裂のようすや、生殖、遺伝のしくみについて学習することにより、生命の連続性が保たれることについて理解し、生命を尊重する態度を育てます。 力の基本的な性質や運動の規則性を理解します。力学的エネルギーに関わる実験を行い、仕事の概念やエネルギーの移り変わりと保存について理解します。日常生活と関連づけた運動とエネルギーの見方や考え方を養います。
2 学期	4 地球と宇宙 1章 宇宙の広がり 2章 地球の運動と天体の動き 3章 月と惑星の見え方 5 地球とわたしたちの未来のために 1章 自然のなかの生物 2章 自然環境の調査と保全 3章 自然の恵みと災害 4章 科学技術と人間 終章 持続可能な社会をつくるために	身近な天体の観察を通して、地球の運動と太陽や惑星の特徴および月の運動と見え方を理解します。天体および宇宙への興味・関心を高めます。 エネルギーの変換や保存について日常生活と関連づけて学習し、科学技術とその発展のあり方を考えます。 自然環境について調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解します。自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察し判断する態度を養います。
3 学期	[化学基礎] 序章 化学と人間生活 第1部 物質の構成 第1章 物質の構成 第1節 純物質と混合物 第2節 物質とその成分 第3節 粒子の熱運動と物質の三態 第2章 物質の構成粒子 第1節 原子の構造と電子配置 第2節 イオン 第3節 元素の周期表	化学と人間生活のかかわりについて関心を高め、化学が物質を対象とする学問であり、人間生活に重要な役割を果たしていることを理解するとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けます。 物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解します。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにします。

令和7年度 シラバス

教科	理 科	科目	化学基礎	学年・類型	4 年	必修・選択	単位数(週時数)	2
教科書	化学基礎（啓林館）							
副教材等	「化学基礎・化学実験ノート」（愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門） 「探究 理科学習資料」（愛媛県高等学校教育研究会理科部会理科研究委員会）							

学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付けます。	
学習の方法	授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。予習・復習を確実に行って授業に臨みましょう。 各種報告書の作成においては、記録と考察を十分に行之、記入することが大切です。	
評価の基準	科学的な知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、観察、実験を行うことで知識や技能を身に付けている。
	科学的な思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価の方法	各学期の評価 上記の観点を踏まえ、定期考査、各小テスト、実験レポート、そして授業への取り組み方などを総合的に判断して評価を行います。 第1学期～第3学期の成績を総合して年間の学習成績とします。	

	単元	主な学習内容
1学期	第3部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第1節 原子量・分子量・式量 第2節 化学反応式 第2章 酸と塩基 第1節 酸と塩基 第2節 水の電離とpH 第3節 酸・塩基の中和と塩	原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質を粒子の数で表す「物質量」とその単位 mol、化学変化における物質の量的関係を表す方法などについて理解し、扱えるようにします。 酸と塩基の性質や反応についての仕組みや利用例について観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や法則を理解します。
2学期	第3章 酸化還元反応 第1節 酸化と還元 第2節 酸化剤と還元剤 第3節 金属の酸化還元反応	代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを酸化数と関連付け、観察、実験などを通して探究し、その利用例について調べ理解を深めます。
3学期	第4節 酸化還元反応と人間生活 化学基礎演習 分子からなる代表的な無機物質の性質について 探究活動	日常生活と関連付けて考察できるようにします。 化学基礎の無機物質についての復習とその性質を発展的に調べより深く理解します。 化学基礎で疑問に思ったことを観察、実験を通して探究する態度を養います。

令和7年度 シラバス

教科	理科	科目	物理基礎	学年・類型	5年・理数	必修・選択	単位数(週時数)	2(3)
教科書	改訂 高等学校 物理基礎 (第一学習社)							
副教材等								

学習の目標	授業を通じて、物体の運動と様々なエネルギーについての基礎的な概念や法則を学びます。実験・実習を通して、原理・原則を一般化したり、問題を解決していく姿勢を身に付けたりします。自然科学分野の根底をなす物理学を基礎から学ぶことで、多方面に応用できる幅広い知識・学力を身に付け、各自が将来進もうと考えている分野に対する基本的な学力を獲得します。	
学習の方法	授業で日々学習する内容は、身近な事象でありながら実際は抽象化された内容であり、なかなか実際の日常生活には結びつきにくいので、授業を大切にし、内容をよく復習するようにしてください。実験や問題演習を通して、知識を深めていくことになります。課題等は確実に提出し、学習内容の定着を図ってください。	
評価の規準	知識・技能	自然の事物・事象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行うことができる。また、そこから得られた考えを的確に表現するとともに、科学的に探究する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	自然現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価の方法	各学期の評価 上記の観点を踏まえ、定期考査、各小テスト、実験レポート、そして授業への取り組み方などを総合的に判断して評価を行います。 第1学期と第2学期の成績を総合して年間の学習成績とします。	

	単元	主な学習内容
1 学 期	「物理基礎」 第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則 第3節 仕事と力学的エネルギー 第Ⅱ章 熱 第1節 熱とエネルギー	基本的な保存則である「運動の法則」、「力学的エネルギーの保存の法則」を学習します。保存力と保存力のする仕事も、合わせて考えます。また、熱として力学的エネルギーが失われることも理解します。
2 学 期	第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第Ⅳ章 電気 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	媒質の振動である波動現象の基礎的な共通事項を理解し、現象を定量的に扱う方法を身に付けます。具体的な波動現象である音や光について学習し、それぞれに特徴的な現象について考えます。「物理」で電気現象の定量的な取り扱いを学習することになるので、ここでは定性的な扱いにとどめます。そのため、右ねじの法則、レンツの法則など電場・磁場などの向きについては学習します。
3 学 期	(12月からは物理／生物の選択科目へ移行)	

令和6年度 シラバス

教科	理科	科目	物理	学年・類型	5年・理数 必修・選択	単位数(週時数)	2(6)
教科書	物理（数研出版）						
副教材等	セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）						

学習の目標	授業を通じて、基礎的な概念や法則を学びます。実験・実習を通して、原理・原則を一般化したり、問題を解決していく姿勢を身に付けます。自然科学分野の根底をなす物理学を基礎から学ぶことで、多方面に応用できる幅広い知識・学力を身に付け、各自が将来進もうと考えている分野に対する基本的な学力を獲得します。	
学習の方法	授業で日々学習する内容は、身近な事象でありながら実際は抽象化された内容であるので、授業を大切にし、内容をよく復習するようにしてください。毎時間とも、これまで知らなかったことを初めて学習するという心構えが大切になります。実験や問題演習を通して、知識を深めていくことになります。課題等は確実に提出し、学習内容の定着を図ってください。	
評価の規準	知識・技能	自然の事物・事象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験を行うことができる。また、そこから得られた考えを的確に表現するとともに、科学的に探究する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	自然現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価の方法	各学期の評価 上記の観点踏まえ、定期考査、各小テスト、実験レポート、そして授業への取り組み方などを総合的に判断して評価を行います。 「物理基礎」 第1学期と第2学期の成績を総合して年間の学習成績とします。 「物理」 第3学期の成績を年間の学習成績とします。	

	単元	主な学習内容
1学期		
2学期	<11月まで必修科目として物理基礎>	
3学期	「物理」 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体 第3章 運動量の保存 第4章 円運動と万有引力	「物理基礎」の力学では扱わなかった高度な力学を学習します。一直線上ではなく、平面上の運動。速度と加速度の向きが一致しない円運動や重力加速度を定義し直すことになる万有引力を学習します。また、物理学の基礎となる保存則の一つである運動量の保存も併せて学習します。

令和7年度 シラバス

教科	理 科	科目	化 学	学年・類型	5年・理数	必修・選択	単位数(週時数)	2
教科書	化学 (第一学習社)							
副教材等	「化学基礎・化学実験ノート」(愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門) 2023 セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)							

学習 の 目標	化学の学習を通し科学的なものの見方や考え方を身に付けます。実験、観察を通して科学的に探究する能力を育成します。さらに、化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付けます。		
学習 の 方法	授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。授業中に修得することが一番大切ですが、予習復習は短時間で構いませんから確実に行いましょう。 各種報告書の作成においては、記録と考察を十分に行之、記入することが大切です。		
評価 の 規 準	科学的な 知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、観察、実験を行うことで知識や技能を身に付けている。	
	科学的な 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
	主体的に学習に 取り組む態度	然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
評価 の 方法	各学期の評価 上記の観点を踏まえ、定期考査、各小テスト、実験レポート、そして授業への取り組み方などを総合的に判断して評価を行います。 第1学期～第3学期の成績を総合して年間の学習成績とします。		

	単元	主な学習内容
1 学 期	第2部 物質の変化と平衡 第2章 化学反応と電気エネルギー 第1章 化学反応と熱・光エネルギー	化学反応に伴うエネルギーの出入りや電気エネルギーと関連させた原理を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を学習します。
	第1部 物質の状態 第1章 固体の構造 第2章 物質の状態変化 第3章 気体の性質 第4章 溶液の性質	物質の状態変化について学習するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察します。
	第2部 物質の変化と平衡 第3章 反応速度 第4章 化学平衡	気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について学習するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察します。
2 学 期	第3部 無機物質 第1章 周期表と元素の分類 第2章 非金属元素 第3章 典型金属元素 第4章 遷移元素 第5章 生活と無機物質	化学反応に伴う反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を学習します。
	第4部 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 酸素を含む脂肪族化合物	無機化合物の化学的性質や変化を実験・実習から、理解し、物質を化学的に調べる方法を習得します。日常生活に観覧した物質について、化学量論的な考察ができるように学習します。
3 学 期	第4部 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 酸素を含む脂肪族化合物	有機化合物は、炭素を含む化合物で炭素鎖の形状と期や官能基により分類され体系化されていることを学習します。有機化合物には、身近な物質が多く、身の回りの医薬品、染料、洗剤などに利用されていることを実験から考察します。

令和7年度 シラバス

教科	理科	科目	化学探究	学年・類型	6年・人文・必修・ 選択	単位数(週時数)	2
教科書	探究 理科学習資料（愛媛県高等学校教育研究会理科部会理科研究委員会）						
副教材等	化学基礎 改訂版（啓林館） 「化学基礎・化学問題集」、「化学基礎・化学実験ノート」（愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門）						

学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付けます。
学習の方法	授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。予習・復習を確実に行って授業に臨みましょう。 各種報告書の作成においては、記録と考察を十分にを行い、記入することが大切です。

評価の規準	関心・意欲・態度	日常生活との関連を図りながら、物質とその変化について関心を持ち、科学的な見方や考え方が身に付いている。
	思考・判断・表現	探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、そこから得られた考えを的確に表現している。
	観察・実験の技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、結果を的確に記録、整理し、科学的に探究する技能を身に付けている。
	知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	各学期の評価 上記の観点等を踏まえ、定期考査及び小テストの成績、実験報告書、課題その他、主体的な授業への取組等を総合的に判断して評価を行います。 年間の学習状況の評価 第1学期から第3学期の成績を総合して年間の学習成績とします。	

	単元		主な学習内容
1学期	1 愛媛の産業と科学	(1)銅の精錬 (2)タオル (3)炭素繊維 (4)ポリエステルリサイクル	○ イオン、電気分解・電解精錬 ○天然高分子、アルコール・アルコール発酵、オゾン漂白 ○ 炭素繊維の性質と製造方法 ○ 合成高分子（PET） 他、化学基礎の内容を随時復習します。
	2 観察実験と研究	(1)研究の進め方	○ 研究計画の立案、研究のまとめ方（実験） ＜随時実施＞
	3 環境問題の学習	(1)大気・水質の汚染 (2)消えゆく動植物	○ 環境問題が生物に及ぼす影響 ○ 環境破壊と種の絶滅
2・3学期	4 化学の学習を振り返って（化学基礎総合演習）		○ これまで学習した化学基礎の全ての分野に渡って、総合的に演習を行い、応用力を伸ばします。

令和7年度 シラバス

教科	理科	科目	物理	学年・類型	6年・理数 必修・選択	単位数(週時数)	5
教科書		改訂版 物理(数研出版)					
副教材等		セミナー「物理基礎＋物理」(第一学習社)					
学習の目標	「物理基礎」との関連を考慮しながら、より抽象化された内容を学習し、物理学の基本的な概念の形成を図ります。また、物理学的に探求する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び、表現力を育成します。						
学習の方法	内容的には、「物理基礎」よりさらに一般化・抽象化されたものとなり、日常生活の具体的事象とは、かなり離れた内容も学習することになります。したがって、授業で習った内容を自分自身の経験と結びつけることは困難になります。そのため、授業をよく聞き、帰ってからもう一度教科書を読んで復習して、学習内容の定着に努力してください。また、大学入試のために問題演習にも力を注いでください。						
評価の規準	知識・技能	自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則の理解し、見通しをもって科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。					
	思考・判断・表現	自然の事物・現象を調べる活動を通して得られた結果を、科学的に考察することができ、発見した規則性や自分の考えをグラフや式を利用して正しく表現することができる。また、そこから得られた考えを的確に表現するとともに、科学的に探究する力を身に付けている。					
	主体的に学習に取り組む態度	自然現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。目的意識を持って観察・実験を行うことができる。また、その結果を適切に処理できる。					
評価の方法	各学期の評価 上記の観点を踏まえ、定期考査、各小テスト、実験レポート、そして授業への取り組み方などを総合的に判断して評価を行います。						

	単元	主な学習内容
1 学 期	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 第3章 光 第4編 第1章 電場 第2章 電流	熱力学の基本的な事項を学び、「熱力学の第一法則」を中心に学習していきます。次に、エネルギーを伝達する1つの方法である波動を学習します。音や光が波であることを確認にし、それに伴う「干渉」、「回折」、「重ね合わせの原理」など種々の現象を理解していくこととなります。1学期後半からは電磁気学に進みます。まず、歴史上の発見の順に、静電気からはじめて電流へ学習内容を進化させていきます。
2 学 期	第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波 第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核 「物理」の復習 共通テスト対策	電磁誘導では、電流の磁気的作用から学習を始めます。磁束の時間的変化が起電力を生むことを理解していきます。さらに電磁波の発生・伝播の仕方についても一般的なことを学んでいきます。高校物理の最後には原子を学びます。巨視的な世界とは異なる微視的な世界での力学現象を考えることで、原子のエネルギー準位を導いていきます。放射線や素粒子についても触れます。教科書が終了した後は、問題演習をしていくこととなります。
3 学 期	共通テスト対策 2次試験対策	共通テスト前は、共通テスト対策の問題演習を実施することとなります。また、2次試験のための問題演習も実施します。

令和7年度 シラバス

教科	理 科	科目	化 学	学年・類型	6年・理数	必修・選択	単位数(週時数)	4
教科書	化学 (啓林館)							
副教材等	「化学基礎・化学実験ノート」(愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門) 2023 セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)							

学習 の 目標	化学の学習を通して科学的なものの見方や考え方を身に付けます。実験、観察を通して科学的に探究する能力を育成します。さらに、化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付けます。		
学習 の 方法	授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。授業中に修得することが一番大切ですが、予習復習は短時間で構いませんから確実に行いましょう。 各種報告書の作成においては、記録と考察を十分に行い、記入することが大切です。		
評価 の 規準	科学的な 知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、観察、実験を行うことで知識や技能を身に付けている。	
	科学的な 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
	主体的に学習に 取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
評価 の 方法	各学期の評価 上記の観点を踏まえ、定期考査、各小テスト、実験レポート、そして授業への取り組み方などを総合的に判断して評価を行います。 第1学期～第3学期の成績を総合して年間の学習成績とします。		

	単元	主な学習内容
1 学 期	第4部 有機化合物 第3章 酸素を含む脂肪族化合物 第4章 芳香族化合物 第5部 高分子化合物 第1章 高分子化合物 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物	有機化合物の性質を観察、実験などを通して探究し、それぞれの物質の特徴を学習するとともに、日常生活や社会と関連付けて考察します。 <主なテーマ> 医薬品、染料、洗剤、糖類、アミノ酸 高分子化合物の性質を観察、実験などを通して学習するとともに、日常生活と関連付けて考察します。 <主なテーマ> 高分子化合物の分類と特徴、合成繊維、プラスチック、ゴム、糖類、タンパク質、核酸、繊維、衣料、高分子化合物の利用
2 学 期	化学総合演習	化学のすべての分野にわたって、総合的に演習を行い、応用力を伸ばします。
3 学 期	化学課題学習	化学のすべての分野にわたって、実践力をつけます。